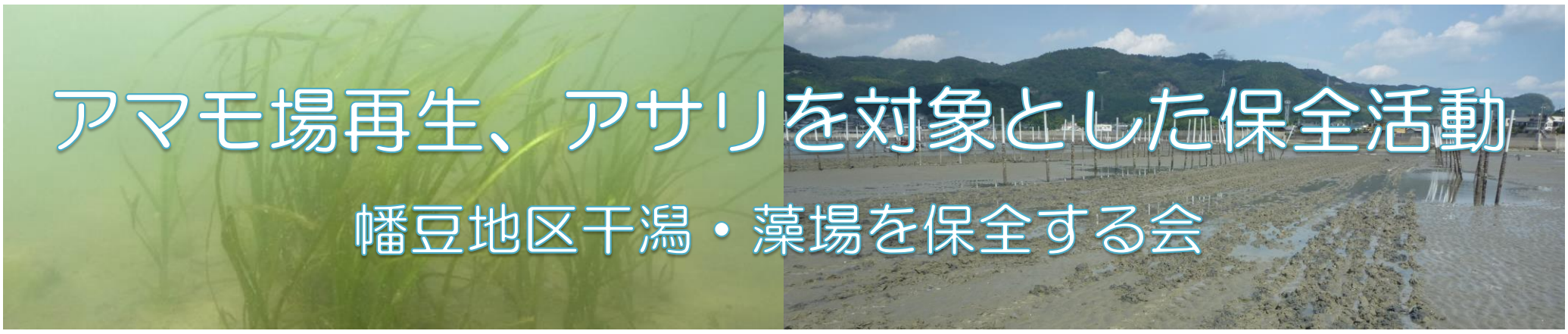


アマモ場再生、アサリを対象とした保全活動

幡豆地区干潟・藻場を保全する会

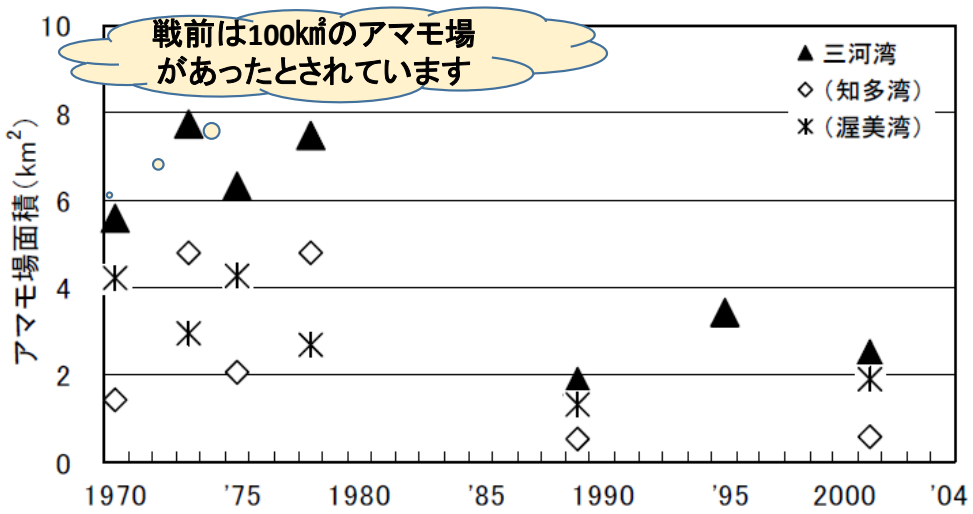
幡豆地区について

愛知県西尾市東部の幡豆地区は三河湾の中央に位置し、温暖な気候に恵まれ、一大観光地帯を形成しています。

内湾で干潟が発達し、アサリが多く獲れるため、潮干狩りが盛んです。また、戦前は湾内には広大なアマモ場が広がり、いろいろな海生生物の育成場になっていました。

藻場・干潟資源の減少と再生への挑戦

全国規模でアマモ場の衰退が進んでいますが、伊勢湾や三河湾もその例外ではなく、戦前から戦後にかけてと、それ以降今世紀にかけてそれぞれ大きく面積が減少しました。また、潮干狩りで獲れるアサリについても減少傾向がみられました。



阿知波英明「伊勢・三河湾のアマモ場面積の変動」（2009-10愛知県水産試験場研究報告）

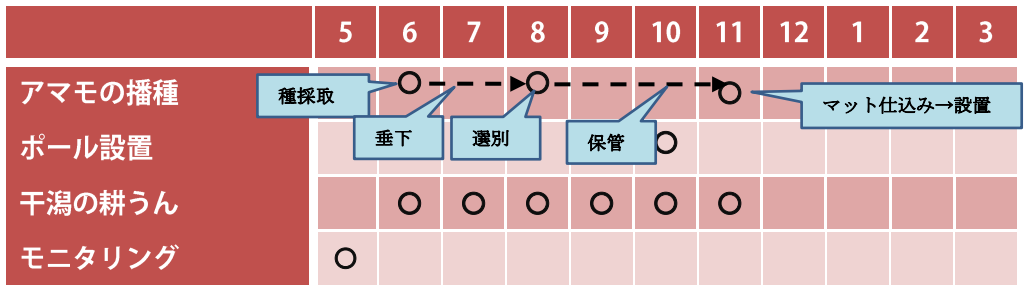
三河湾のアマモ場面積の変動

この状況を打開するため、地元では平成５年頃からいろいろな方法でアマモの増殖や干潟の基盤改善を試みてきました。

それらの成果を活かし、幡豆漁協、東幡豆漁協がそれぞれの管轄区域の地形的特徴に適した活動を展開して現在の「多面的機能発揮対策事業」につながっています。

幡豆地区干潟・藻場を保全する会について

設立　：平成 25 年 6 月 11 日
目的　：藻場、干潟の保全並びに地元に対する多面的機能の理解・増進につながる教育
構成員　：53 名（幡豆漁協 18 名・東幡豆漁協 35 名）
活動　：活動項目及び 29 年度スケジュールは下記の通りです。



地形・地質の違いを踏まえた２漁協の分担と連携

幡豆地区は、東西で地形や地質が異なります。幡豆漁協管轄の西部は岸近くまでやや水深が深めで以前はアマモ場が発達していたのに対し、東幡豆漁協管轄の東部には広大な干潟が広がり、岸から重機類がアプローチしやすくなっています。

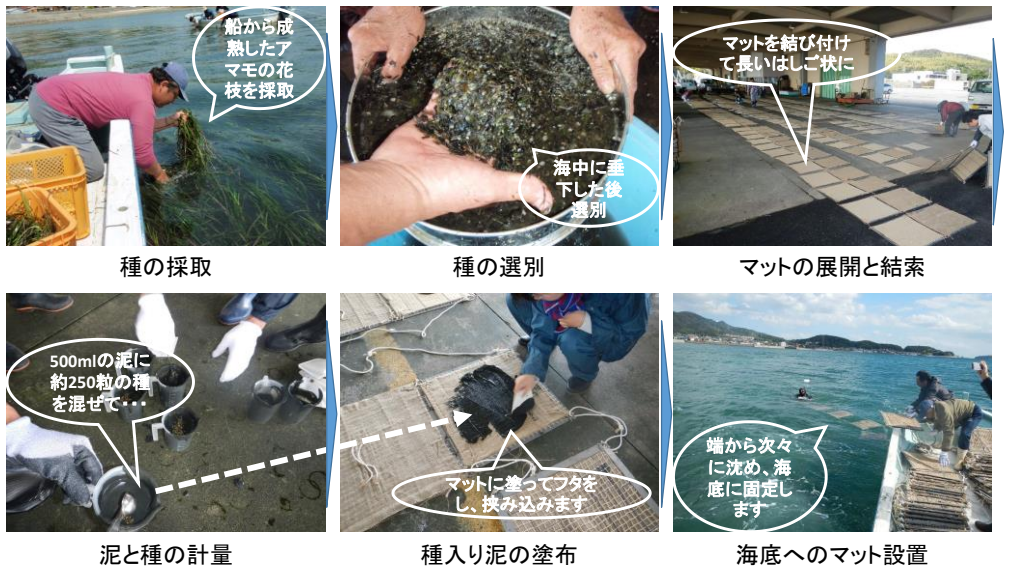
これらの状況を踏まえ、幡豆漁協は船上作業主体のアマモ場造成を、東幡豆漁協は重機を使った干潟の基盤改善をそれぞれ中心とし、適度に情報共有しながらさらなる手法改善とそれによる効果拡大を目指しています。

継続的な活動と蓄積したノウハウによる手法の改善

①アマモの播種（幡豆漁協）

「ゾステラマット」を使った効率的で確実な播種を行っています。

100 枚以上のマットをあらかじめマット同士を結び付けておくなど作業方法を工夫し、効率的に作業するとともに経験に基づいて設置場所を適切に選定しています。



種の採取　　種の選別　　マットの展開と結索

泥と種の計量　　種入り泥の塗布　　海底へのマット設置

②干潟の耕うん（東幡豆漁協）

トラクタを使った干潟の耕うんを実施しています。

逸失を防ぎ、生残率が高くなるよう、季節風等諸条件を考慮し、種苗放流の場所・時期等の関係を考えながら実施しています。

干潟の基盤改良（耕うん）

同左（近景）